



経済経営学類

Faculty of Economics and Business Administration



100年の伝統と実績をもとに次の学びへ
幅広い教養と経済・経営の専門知識を身につけ、
グローバルに活躍する人材を育成します。

学類紹介MOVIEを
チェック!



■ 経済学コース

・経済理論モデル / ・グローバル経済モデル

■ 経営学コース

・地域経営モデル / ・会計ファイナンスモデル

こんな人に学んでほしい

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身に付け、
現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成することを目標とし、
卒業までに次の知識および能力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- 経済学と経営学の専門知識
- エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- グローバルに思考し実践に進む力
- キャリアを見据え自立し協働する力

SHINING GRADUATES



社会で
活躍する
卒業生

Interview

東北電力株式会社 ビジネスサポート本部 経理部
経済経営学類 経済学コース 2021年卒業

國分 菜々子さん

※勤務先は取材当時のものです。

お客様の顔の見える場所で インフラから暮らしを支えたい

福島大学では地域経済を学び、交通政策で街づくりを考えるゼミ
に属していました。バスを使って高齢者の生活をどう変えていくかな
ど、フィールドワークを通して解決策を考えていました。地域の方々に
アポイントを取って取材したり、考案した企画への協力・協賛をお願
いしたので、相当コミュニケーション力が鍛えられました。実際に社会
に出て役立つ能力が身に付いたと思います。

東北電力に入社したほとんどの方がそうだと思うのですが、震災
をきっかけにインフラの大切さを痛感しました。当時郡山で暮らして
いた私も、電気や水道が止まり、家族で県外の親戚のところに避難し



ました。そのインフラを維持することで地域を支える仕事がしたいと
思い、こちらに入社しました。現在は経理部で会社の損益予算を管理
するチームにいます。決算の数字が最初に見えてくる部署なので、会
社全体の動きが見える場所かもしれません。弊社には様々な部門が
あり、いずれは直接お客様と関わり、より地域に近い部署で働きたい
と思っています。

卒業後の 主な進路

- 国家公務員
一般職(経済産業省、国土交通省、農林水産省、金融庁など)
国税専門官、財務専門官、労働基準監督官など
- 地方公務員
自治体(福島県、宮城県、仙台市、福島市、郡山市、山形市など)
県警、消防
- その他公共機関・各種団体(日本年金機構、農業協同組合など)
- 金融機関
都市銀行(三菱UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行など)
地方銀行(七十七銀行、東邦銀行、山形銀行、足利銀行、常陽銀行など)
保険(東京海上日動、第一生命、住友生命、日本生命、かんぽ生命など)
証券(野村證券、大和証券など)
大手政府系金融機関(日本政策金融公庫、農林中央金庫など)
- エネルギー(東北電力、北海道電力、東京ガスなど)
- 鉄道・航空・観光(JR東日本、成田空港、JTBなど)
- 製造業(クボタ、小松製作所、福島キャノン、キーエンスなど)
- 建設・不動産
(三井不動産レジデンシャル、住友不動産販売、積水ハウスなど)
- メディア(福島放送、テレビユー福島、福島民報、福島民友など)
- 情報通信(NTT東日本、NTTドコモ、富士通など)
- コンサルタント、マーケティングリサーチ(アクセンチュア、マクロミルなど)
- 専門職(公認会計士、税理士、社会保険労務士、商業高等学校教諭など)
- 大学院進学
(東北大学、一橋大学、筑波大学、神戸大学、福島大学など)

カリキュラムの特長

小集団学習をベースにした積み上げ式の教育体系

経済経営学類に入学したらまず全員が「リテラシー科目」を第1 Semesterから第3 Semesterまで学び、経済経営の基本を身につけます。そのうえで第4 Semesterから専門演習に所属し、それぞれの活動や研究を展開します。第7 Semesterから卒業論文をまとめていきます。この積み上げ式のカリキュラムによってグローバルな思考と実践力を養成します。

学士号と
取得できる
教員免許・資格

- 学士(経済学)
- 高等学校教諭一種免許状(商業)



		1 年次 		2 年次 		3 年次 		4 年次 																											
		第1セメスター		第2セメスター		第3セメスター		第4セメスター		第5セメスター		第6セメスター		第7セメスター		第8セメスター																			
経済学・経営学の基礎を修め垣根を越えて学ぶ		リテラシーA（必修：7科目） ・入門マクロ経済学 ・入門政治経済学 ・入門経営学 ・簿記概論I ・入門ミクロ経済学 ・簿記概論II ・入門統計学												経済学コース 経済理論モデル		経営学コース 地域経営モデル		会計ファイナンスモデル																	
		リテラシー科目（A・B） 経済経営学類の学生に、まずは必ず学んでほしい基本的な科目が「リテラシー科目」です。リテラシーAの7科目はすべて必修で、リテラシーBの9科目はそのうちの7科目を自分で選択して必修としています。入学から1年半の間に、順番に履修することになります。												リテラシーB（選択必修：9科目中7科目） ・歴史と経済 ・基礎経営学I ・多文化理解 ・ミクロ経済学I ・マクロ経済学I ・世界経済論I ・地域と経済 ・基礎経営学II ・入門会計学																					
これからの「働き方と暮らし方」を考える		・キャリア形成論												・キャリアモデル学習 ・ワーキングスキル		・組織行動論		・人的資源管理論 ・社会政策 など		・労働経済		専門演習（ゼミ）、卒業研究演習 2年次の後半から、自分の学びたい分野、教わりたい教員のゼミを選んで所属します。本を輪読して議論したり、国内外へ調査に行ったり、地域の課題に実践的に関わったりと、その活動はさまざまです。その成果を卒業論文へとまとめていくことになります。経済経営学類での小集団学習の中核となるもので、その充実した内容には自信があります。													
		アドバイザー教員 スタートアップセミナー、問題探究セミナー、専門演習の教員が学修や進路など大学生生活全般のアドバイスをを行います。専門演習に所属しない学生は別途アドバイザー教員となる教員を決定します。												調査・分析スキルズ		コーオプ演習／連携講義																			
		・社会とデータ科学の基礎												スタートアップセミナー		問題探究セミナーI		問題探究セミナーII		専門演習												卒業研究演習I		卒業研究演習II	
・アドバイザー教員制度												グローバル・エキスパート・プログラム（グローバルEP）																							
基盤教育		外国語を学ぶ												外国語コミュニケーション科目（英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国朝鮮語）																					
		幅広い教養を身につける												学術基礎科目（人文科学分野・社会科学分野・自然科学分野）		情報リテラシー		健康運動科学実習		スポーツ実習		問題探究科目		自主学修プログラム											
さらに幅広く学ぶ		自由選択領域（他コース専門科目、他学類開放科目など）																																	

※優秀な卒業研究に対して「飯塚賞」を授与しています

飯塚賞とは、飯塚毅氏の同窓会への寄付金及び氏の栄誉を永く記念する「飯塚基金」の運用益金をもって毎年度の優秀卒業生を表彰するものです。



幅広い教養と経済・経営の専門知識を身につけ グローバルに活躍する人材を育成します

学類長 メッセージ

Message

先行きが不透明な時代を 「しなやか」に渡る術を修得

経済経営学類は、1922年に創立された福島高等商業学校の伝統を引き継いでおり、令和4年に100周年を迎えました。この間に卒業した同窓生は2万5千名を超え、経済界のみならず、各界で活躍しています。カリキュラムは経済学コース、経営学コース、コース横断的なグローバルエキスパートプログラムを中核としています。また、入学時から所属するスタートアップセミナーや語学系科目など、少人数で学ぶ科目が豊富に準備されているのが特徴です。現在の経済・経営の動向は、情報技術の急速な進展を伴うグローバル化によって、これまで以上に不透明になってきています。学生の皆さんには、このような世の中を「しなやか」に渡ってゆく術を身につけた人材に育っていただきたいと思います。



経済経営学類長 井上 健 教授

教員紹介 ※2024年4月1日現在

経済学コース

荒 知宏 (国際経済学)
石川 大輔 (マクロ経済学)
井上 健 (統計学、計量経済学)
岩本 吉弘 (社会思想史)
大川 裕嗣 (西洋経済史、ドイツ農業史・社会経済史)
菊池 智裕 (労働経済、社会政策、社会保障)
熊沢 透 (産業組織論)
佐藤 英司 (経済学【近代経済学】)
佐藤 寿博 (開発経済学、アジア経済)
佐野 孝治 (アジア経済論、中国経済論)
朱 永浩 (経済地理学)
末吉 健治 (アメリカ経済論)
十河 利明 (環境経済学)
沼田 大輔 (地域経済学、地方財政論、環境経済学)
藤原 通 (地域経済論、労働社会学)
三家本 里実 (都市・地域計画、地域交通政策、観光政策)
吉田 樹

経営学コース

生島 和樹 (会計学、財務会計)
稲村 健太郎 (租税法)
奥本 英樹 (ファイナンス)
奥山 修司 (マネジメント会計、取引デザイン)
貴田 同 信 (簿記会計、原価計算)
金 善熙 (組織行動論)
高橋 宏和 (会計学【財務諸表論、原価計算論】、監査論)
根建 晶寛 (財務会計、企業評価分析)
野口 寛樹 (組織論、非営利組織論)
村上 早紀子 (地域づくり、住居学、都市計画)
尹 卿烈 (経営戦略、国際経営論、ビジネスイノベーション論)

グローバル・エキスパート・プログラム

伊藤 俊介 (朝鮮近代史)
井本 亮 (日本語学、日本語教育)
吉高 伸明 (国際公共政策論、国際関係論)
クズネツォーフ・マリナ (社会論)
グンスケフォンケルン・マルティナ (外国語教育法)
佐々木 俊彦 (英文学、カルチュラル・スタディーズ)
手代木 有見 (中国近代思想史)
福富 晴之 (理論言語学、比較統語論)
マッカーランド・フィリップ (英語教育法【異文化コミュニケーション】)
橋内 裕一郎 (スピーキング、英語教育学)
吉川 宏人 (十九世紀ロシア文学)

詳しい
経歴は
こちら



活動
PICK UP!

ゼミナール合同報告会



演習系科目での学生による研究活動の集大成として、12月下旬にゼミナール合同報告会を開催しています。経済経営学類における年末の恒例行事で2007年から毎年開催されています。各ゼミナールのアプローチは経済理論に基づく政策分析、統計学を活用したデータ解析、日本と海外における制度の比較、地域や海外でのフィールド調査など多岐に渡り、本学類における研究活動の多様性を象徴するホットなイベントとなっています。

海外インターンシップと 「Work Experience Abroad I・II」

本学類では、年間を通じた教育プログラムとして海外インターンシップを提供しています。まずインターンシップに先立ち、身につけておくべき文化や技術をネイティブスピーカーの教員から英語で学ぶ授業があります(WEA I)。そして8月から9月の約2ヶ月間、米国テキサス州ヒューストン市役所でインターンシップに参加します。職場体験だけでなく、現地の大学(University of St. Thomas)で福島について発表するなどの機会もあります。帰国後は各自の体験を英語で報告する授業が用意されており、学びをさらに深めることができます(WEA II)。



まちづくりのためのフィールドワーク

地域経営モデルでは、机上の学習に留まらず、実際にフィールドに出向くことで地域課題に取り組む点が特徴です。村上ゼミでは、空間の再編集および利活用、コミュニティビジネスなど地方都市が抱える課題をキーワードにしながら、地域の住民の皆さんや、まちづくり会社をはじめとした地域組織との議論および連携により研究活動に励んでいます。



“会計人”を目指したプログラム

2019年度より開始した「会計エキスパート・プログラム」では、会計専門職や経理財務担当者、高校教諭や研究者など、多様な“会計人”を目指した主体的な学修を支援する体制を整えました。系統的な学修、所定の検定試験への合格、一部の大学院授業の履修などの基準を満たした学生に「会計エキスパート・プログラム修了証」を授与しています。学類棟1階には専用の自習室を設けているので、意識の高い仲間とともに緊張感を持って学修に取り組んでください!





経済学コース

経済理論モデル / グローバル経済モデル



主な科目

- ミクロ経済学
- 政治経済学
- 公共経済学
- 産業組織と規制の経済学
- 国際経済学
- 世界経済論
- 経済学史
- マクロ経済学
- 財政学
- 労働経済
- 計量経済学
- 国際関係論
- アメリカ経済論
- 日本経済史
- 入門金融論
- 経済政策
- 環境経済学
- 日本経済論
- 開発経済学
- アジア経済論
- 比較経済史

経済学コースでは、経済社会の課題はもちろん、
歴史と現在、そして未来を考えるために、各教員が連携、協力し合い、研究と教育を進めます。
学生の皆さんにとっても、科目が選びやすくなり、
経済社会をより多角的に理解できる環境が整っています。

経済理論モデル

「物価が下がってきている」「株価が上昇している」「人手不足が深刻になりつつある」といった経済事象について、その背景にある要因を探ったり、適切な対応方法を選択したりするためには、経済理論の理解が不可欠です。これまでに積み重ねられてきた経済理論をその歴史的な経緯も含めて体系的に理解し、現実の経済問題に適應することができる人材を目指します。



グローバル経済モデル

Think Globally, Act Locally. グローバリゼーションが進む現代では、地域で活躍する場合でも、世界的規模で考え、分析することが必要です。国際経済学などグローバルな視野に立った経済学・経営学をはじめ、欧米やアジア地域を対象とした科目を学んだうえで、グローバル・エキスパート・プログラムで実践的語学力を身につけることで、グローバル人材を目指します。



経営学コース

地域経営モデル / 会計ファイナンスモデル



主な科目

- 経営戦略論
- 人的資源管理論
- 地域企業経営論
- 国際経営論
- 経営情報分析
- 中級簿記
- 原価計算
- 経営組織論
- マーケティング論
- 地域経済論
- 調査法
- 財務管理論
- 上級簿記
- 管理会計
- 組織行動論
- 消費者行動論
- 地域政策論
- 租税法
- 現代ファイナンス
- 財務諸表論
- コスト・マネジメント

経営学コースでは、非営利組織(自治体、NPOなど)も対象としながら、
より幅広い視点で経営現象をとらえます。
特に地域経済と経営、会計とファイナンス(金融)について、
基礎を修めながら垣根を超えて学ぶことができるのが特徴です。

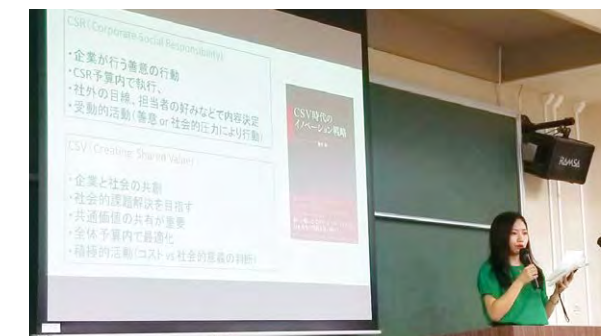
地域経営モデル

少子高齢化や人口減少は現在の日本社会全体が抱える課題ですが、とりわけそれが著しいのが地方都市です。そこで地域経営モデルでは、いわば「課題先進地域」といえる地方都市をフィールドに、経営分野と地域経済分野について重点的に学びます。これによって、マネジメントと地域振興の視点を併せ持った人材を目指します。



会計ファイナンスモデル

企業活動の結果を分析し、将来に向けて適切な経営意思決定を行うためには、会計情報を活用する知識の習得が不可欠です。会計ファイナンスモデルでは、外部報告のための財務会計、経営管理のための管理会計、財務管理のためのファイナンス手法を体系的に学習し、会計数値を経営行動に活用できる人材を目指します。



在学生からのメッセージ

Student's Message

〔 経済学コース 〕



経済経営学類 経済学コース 2年〔福島県立磐城校が丘高等学校出身〕

渡邊 茉凜さん

※学年は取材当時のものです。

東日本大震災当時、富岡町に住んでいて、最初に避難したのが川内村でした。小学1年生で一週間程度しかいませんでしたが、お世話になったことは覚えており、地域実践学習プログラム「むらの大学」の対象に川内村があると聞いて、改めてどんな村なのか知りたいと思い福島大学を選びました。

経済学では経済事象の要因などを理論的に学び考えることが多く、ニュースを見ていてその学びから点と点が繋がると楽しくなります。2年のゼミでは大内宿の人口減少や県内の道の駅への立ち寄りを増やす方策を研究しました。3年では中小企業と連携して、経営について実践的に学ぶ予定です。地域経済や交通政策など地域に関する勉強に力を入れており、将来は地域の方々に貢献できる仕事に就きたいと考えています。

〔 経営学コース 〕



経済経営学類 経営学コース 3年〔栃木県立宇都宮南高等学校出身〕

小林 賢征さん

※学年は取材当時のものです。

経済経営学類は2022年に創立100周年を迎えた伝統があり、OBも多く就職にも強いと考え福島に来ました。将来は企業の経理部門で働きたいので、会計に重点を置いて学んでいます。普通高校出身なので会計の知識はなかったのですが、リテラシーAで取った簿記の授業が大変わかりやすく、資格も取ることが出来ました。租税法のゼミで小学生に税金について教えるカルタを作り、市内の小学校の学童保育で試したりもしました。

入学当初はコロナ禍で授業がオンラインになったり、サークルもできない時期がありましたが、逆に勉強する時間がありました。会計のエキスパートを目指しながら、最終的には税理士になりたいと思っているので、福島大学での学びを土台にして、社会に出てから実戦経験を積んで勉強を続けたいと思います。

コース横断プログラム

グローバル・エキスパート・プログラム(グローバルEP)

中国、韓国、ロシア、ドイツ、米国出身の教員を擁する経済経営学類。異なる国籍、文化的背景を持つ人々の中で他者に共感しつつ、自らの周りの諸課題を地球規模で考える。これが経済経営学類の目指す国際性です。グローバルEPには、学生が海外に飛び立てる、また福島で外国人留学生と交流できる特色ある授業があります。少人数の英語ゼミに所属し、英語で発表する、議論するなど、実践的な英語力を磨いていきます。また日本語、英語とともに、欧州評議会が提案している複言語主義に基づき、英語以外の外国語を学び、三言語の運用能力の向上を目指します。身につけた語学力を武器に、留学、海外調査、海外インターンシップなどさまざまな異文化体験を積むことができます。



Step out of your comfort zone! 成長を望むなら「快適な場所から飛び出なさい」という意味です。このプログラムは、あなたがその一歩を踏み出す一助となるはずです。ぜひ福島で世界を感じ、世界とコミュニケーションしましょう。

Fukushima Workshop

世界各国の協定大学から短期で来日する留学生と、東日本大震災の被災地を訪問したり、市内の農家で桃狩りなどをしつつ交流を深めるFukushima Workshop(Fukushima Ambassadors Program)を開講しています。

ドイツ語実践演習／ロシア語実践演習

ドイツに渡航し、ロシアはリモート留学を通して、語学研修を受けます。同時にさまざまな社会的・文化的なエクスカッション(小旅行)に参加します。

毎日英語

「毎日英語」として英語授業を毎日受講できます。ネイティブスピーカーの英語による授業も選べます。

Work Experience Abroad (WEA)

米国テキサス州の最大都市ヒューストンに2ヶ月間ホームステイし、現地の企業や市役所で実務研修を受けます。研修で使用する言語はもちろん英語です。研修期間が終了する頃には、英語力が飛躍的に向上する、と評判です。

海外調査

中国、タイ、ベトナムなどのアジア地域やドイツなどのヨーロッパ地域に渡航し、現地の企業活動や社会問題に関する調査を行い、同時に現地のさまざまな文化に触れることのできる授業です。

○調査・分析スキルズ

さまざまな意思決定の場において、経験に基づく判断のみでは対応できない状況が生じています。そこで、必要となるのが、データに基づく判断です。まずは、課題を正しく把握したうえで、その課題の解決に向けた計画を立てる必要があります。計画の中では、適切な調査のやり方、収集するデータの種類などについて丁寧に確認していくことが要求されます。調査の実施後、集まったデータを適切に処理し、そこから具体的な解決方法を見つけていきます。このようなデータに基づく意思決定を行うための方法を習得するために、「調査設計を身につけるための科目」「データの分析方法を身につけるための科目」の2種類の領域についてさまざまな科目を開講しています。また、それらの科目の中では、データの処理に不可欠となるコンピュータによる処理方法についても学んでいきます。



○コーオプ演習／連携講義

企業や業界団体など、さまざまな外部組織と提携した実践的な科目を多数揃えています。演習形式の「コーオプ演習」と講義形式の「連携講義」があります。コーオプとは「cooperative(協同の)」のことで、外部組織と大学が協同運営する新しい演習形態です。短期のインターンシップでは得られない、実践的な課題解決を体験することができます。連携先には、民間企業、自治体、NPOなどがあります。一方、連携講義は、連携先の外部組織が講義を担当するもので、現実のケースを通じて専門的な内容を学ぶことができます。租税法概論(東北税理士会)、証券市場論(野村證券)、財務諸表監査(日本公認会計士協会東北会)などがあります。

